

令和5年度 第4回 引佐北部小中学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和5年11月14日（木） 13時26分から15時20分まで
- 2 開催場所 引佐北部小中学校 校長室
- 3 出席委員 鈴木 知成、山本 培代、廣瀬 稔也、池田 信子、
松田 好道、萬立 芳朗
- 4 欠席委員 五十川 亜純
- 5 学 校 小川 誠司（校長）、山下 剛功（教頭）、染葉 直彦（教諭）、岩田 敦夫
（教諭）、田力 里枝（CSディレクター）
- 6 傍聴者 なし
- 7 会議録作成者 CSディレクター 田力 里枝
- 8 議長の選出
司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、松田委員が本日の議長を務めることを申し出、全員異議なくこれを承認した。
- 9 協議事項
（1）みさとパビリオン、English Challenge Dayについて 各担当委員
（2）令和6年度の学校教育目標について 校長
- 10 会議記録
司会の教頭から、委員総数7人のうち6人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

（1）みさとパビリオン、English Challenge Dayについて

松田議長より、みさとパビリオンの資料を一読するよう指示があり、保護者、教員アンケートに目を通した。その後みさとパビリオン担当の染葉教諭より、過去との比較や今後の課題などの説明があった。

- ・子供が学区内のことを知らないので、ふるさと科で現地を訪れることはとてもよい。
「模擬会社きりやま」の形が段々変わってきている。パビリオンの形式も変化していて、以前を知っている子供は、「以前の方が楽しかった」と言っている。発表の仕方を考え直してもよいのではないか。（染葉教諭）
- ・去年よりよくなった。個人発表は参観日にして、パビリオンでは体育館で学年ごとのグループ発表にしてはどうか。ネットではこの地域の情報を探せない。ふるさと科なのだから地域の人から直接話を聞く機会を作るようにしたらどうか。提案して終わりではなく、提案を少しでも形にして手応えのある活動にすべき。（廣瀬委員）
- ・個人でタブレット端末を使っていたのはすごいと思った。縦割りのチームで発表する意味は？グループで作り上げることも達成感が得られる。（池田委員）
- ・地域のことをSNSで発信するという考えは頼もしいと感じた。（山本委員）
- ・子供の数が少ないので、今の形になるのはいたしかたない。（萬立委員）
- ・発表の形はどれがよいというのはなく、先生方が試行錯誤してやってくださっている。
アンケートから、そのバランスが難しいと理解できる。（鈴木委員）

- ・小学生の発表は、なかなかよいと感じた。中学生は午後の討論が気がかりだったのか少し元気がないようだった。「パビリオン」と銘打っているのでいろいろなことをやってみてもよいのではないか。中学生に「ふるさと」についてどこまで考えさせるのか、高校、大学、大人になってもずっと続く。子供の数が少ないので。やるべきことを絞っていくべきでは。(松田委員)

English Challenge Dayについて、岩田教諭より映像を交えて説明があった。今回は初等部の取組として、英語を使った活動、英語に親しむことを目的として行った。

- ・活動のフィードバックはどうしているか。(廣瀬委員)

→授業の中で相曽教諭が生かしていく。(岩田教諭)

- ・じゃんけんが楽しそう。繰り返すことで慣れて段々声が大きくなっていくのが伝わった。(山本委員)

→ハロウィンの成り立ちを説明してもらいよく分かった。文化的学びができた。(校長)

- ・子供は英語に親しんでいるようだ。A L Tの存在が異文化理解に有効である。彼らから子供たちに積極的に接してくれている。(池田委員)

→A L Tとの接し方が10年前とは明らかに違う。ものおじしていない。(岩田教諭)

- ・中等部、高等部の予定は？(廣瀬委員)

→高等部は、昨年同様、高校の留学生を招待しての取組を予定している。中等部は3学期に実施したい。(岩田教諭)

(2) 令和6年度の学校教育目標について

松田議長より、アンケートの集計結果を一読するよう指示があった。

- ・教師の多くが現状維持を、子供たちは新しい目標を選んでいるところが興味深い。(廣瀬委員)

- ・学校教育目標を子供に考えさせる意味は？ 時代の変化に応じて、目標は先生と子供が一緒に考えて変えていく方がいい。(松田委員)

→子供たちに主体的に生きてほしいという思いから。(校長)

- ・子供の意見は、先生方の言動が反映されているように思う。(池田委員)

- ・みなさんの意見を聞くと迷う。子供たちが考えたことは貴重。中学生の多くが「自立」を選んでいる。できていない現実をふり返って響く言葉なのか。(鈴木委員)

- ・「心豊かに生きる」は、昔は分からなかったが今は分かる。そもそもだが校訓は必要か？(萬立委員)

→教育基本法等では定められていない。(校長)

- ・「心豊かにたくましく生きる」で止める方がいいように思う。(山本委員)

- ・義務教育を受ける権利をもつ子供たちの「こう教育してほしい」という意見を尊重してほしい。(廣瀬委員)

11 その他

- ・次回は1月25日(木) 13時30分から開催する旨の連絡があった。